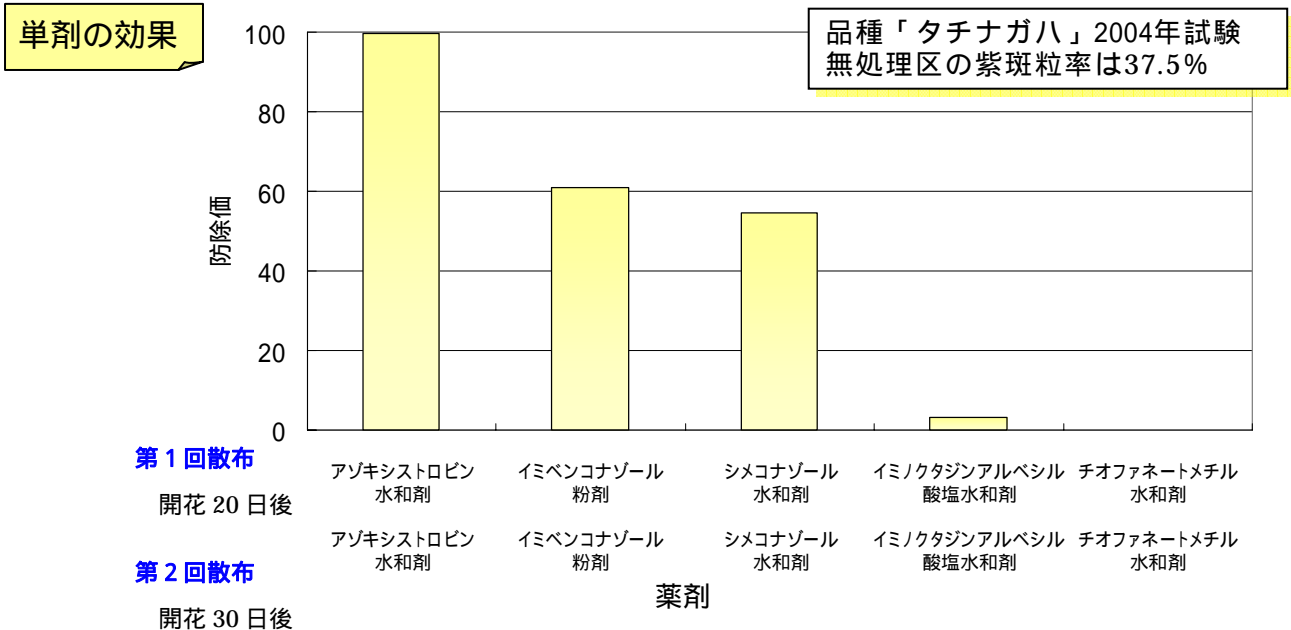




薬剤耐性ダイズ紫斑病に対する効果的な防除薬剤

農業総合センター農業研究所

県内全域にチオファネートメチル剤耐性紫斑病菌が分布していると考えられ、他の剤への転換が必要である。チオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病に対しては、アゾキシストロビン水和剤、イミベンコナゾール粉剤、シメコナゾール水和剤の防除効果が高い。



注) グラフは、紫斑病発生を助長した多発生条件下で各剤を2回散布し、効果を比較したものである

2度の防除を行う場合の薬剤散布体系

アゾキシストロビン水和剤の防除効果は高いが、2度の防除を行う場合は本剤の耐性菌出現を抑制するため、連続散布は行わない。

開花20日後の第1回目の防除でアゾキシストロビン水和剤（アミスター20フロアブル）2000倍を散布し、開花30日後の第2回目の防除に系統の異なる薬剤イミベンコナゾール粉剤（マネージ粉剤DL）4kg/10aまたはイミノクタジナルベシル酸塩水和剤（ベルコート水和剤）1000倍を散布すると、安定した高い防除効果が得られる。

